



み
あ
さ
づ
く
り

祝



開校40周年

美麻小中学校の文化祭“ 梨の木祭”が9月30日(金)10月1日(土)の2日間、開催されました。

今年、美麻小中学校開校40周年ということで、開祭式のVTRに卒業生の方たちがコメントを寄せていただき“40周年記念梨の木祭”を盛り上げてくれました。

多くの地域の方にご来校いただき児童生徒の発表の様子を見ていただいたり、感想を寄せていただいたり、大変ありがとうございました。

40周年を記念して、ゆるきゃら「麻野だいまる君」をデザインしたピンバッジも作成されました。



QRコードを読み取ってパソコンやスマホでホームページをご覧ください。



ホームページ
美麻Wi ki



facebook



2017年地域づくりに向けて



あけましておめでとうございます

新年を迎えごあいさつ申し上げます。平成二十八年は美麻でショックな事件がありました。しかしながら、反対にとてもうれしいニュースもありました。美麻小中学校の文部科学大臣賞受賞と美麻地域づくり会議の中部の未来創造大賞受賞の同時受賞です。

どちらも地域の住民のみなさんが地域の未来を考えてよくしようという取り組みで、長年のみなさんの活動が評価されての受賞となりました。

地域づくり会議としても、子ども高齢化社会の中、今後も住みやすい地域を作るために、地域住民のコミュニケーションを大事に素晴らしいコミュニケーションを取り組んでいきたいと思っておりますので、みなさんのご協力とご理解をよろしくお願いいたします。

美麻地域づくり会議
会長 前川浩一

コミュニティ・スクールの支援に感謝申し上げます

この度、美麻小中学校が文部科学大臣賞を受賞し、十二月八日に学校運営協議会会長の北沢伊さ男さんとともに文部科学省での表彰式に出席させて頂きました。

この受賞は、日ごろ子ども達に関わる先生方の努力もありますが、何よりも地域の皆様の学校への温かいご支援の活動実績が評価されということでした。心からご支援いただいた地域の皆様にご感謝申し上げます。今後とも美麻小中学校へのご支援をよろしくお願いいたします。

美麻小中学校校長 塩島 学

ふるさと美麻会の総会が開催

ふるさと美麻会総会が、十一月五日東京上野の鷗外荘で開催されました。私も地域づくり会議代表として初めて参加させて頂きました。

美麻育ちでない私は、美麻会のみなさんを全く知らないのですが、少し緊張気味で参加しましたが、温かく迎えていただき、楽しく歓談させて頂きました。「ふるさと美麻会」も会員が高齢化少数化の傾向があるので、地域づくり会議としても新たな交流の場を作ることもみなさんと相談しながら進める時期ではないかと思えます。ふるさと美麻会のみなさんへのお土産にお持ちしたふるさとのおみやぎや新しく出来た花豆のケーキ、そして何よりも、この「みあさづくり通信」を楽しみに読まれているとお聞きし、とても嬉しかったです。

(前川浩一)





塩島校長と学校運営協議会の北沢会長が12月16日に、牛越市長、荒井教育長に受賞を報告。

コミュニティ・スクールの活動が 文部科学大臣表彰を受賞

美麻小中学校が平成28年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰を受賞しました。この賞は、「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」での教育方針に基づいた地域学校協働活動等のうち、他の模範と認められるものに対して贈られるものです。

本年度はコミュニティ・スクールでは全国27団体（県内1団体）が表彰を受けていますが、地域のみなさんが支える学校として「まさしくコミュニティスクールである」と評価されたと言うことです。

文部科学省 コミュニティ・スクール フォーラムで事例発表

文部科学省のコミュニティスクールのフォーラムが11月17日長野市で開催され、全国各地から集まった参加者を前に、美麻小中学校が

事例発表を行いました。

以降、文部科学省 コミュニティ・スクール (fbページより引用)

【長野フォーラム】実践発表1

◇学社融合からコミュニティ・スクールに移行していった流れや、協議体による合意形成の必要性などの説明がありました。美麻地域を活性化し、美麻を愛する子供たちを育てたいという思いが伝わってくる発表でした。



「地域のデザイン」を、住民自治で!



美麻地域づくり会議

〒390-0101 美麻町美麻11810 郵便庁
TEL 0261-29-2211
URL http://misa.info/

祝 大賞を受賞しました。

第17回 中部の未来創造大賞



市町村合併協議を通じて、平成16年から、旧美麻町の国際交通事業のボランティアを中心として始まった活動に、地域全体で自覚・組織の制度設計を行い、平成18年に地区内の自治会、公民館、学童PTA、保育園保護者会、農業団体、地区社協、企業、ボランティア団体等、趣向に異なる各団体の個人により設立されました。

美麻地域づくり会議は、住民が共済する「この地で心豊かに暮らしたい」という思いを持続可能な地域づくりの活動に

1. 地区全体で行なう行事等の実施に協力しよう。
2. 地域で困っていることはお互いに理解し解決しよう。
3. 行政が広げられない地域の情報を発信しよう。
4. 美麻の将来に何が必要かを考えよう。

を活動目標に行政と連携した地域づくり活動を行っています。

【具体的な活動内容】

- ・住民が学校運営や授業に参加し、地域の子を育てるコミュニティスクール活動(美麻市民校、PTA給食)
- ・地域の景観保全について遊休農地農地減少活動(龍川再生活動、ひまわり5000本プロジェクト等)
- ・住民自らが地域情報を発信する住民メディア活動(広報誌発行、HP運営、地域情報誌の制作等)
- ・交通人口増加と住民交流を一環に行う道の駅活性化イベント(美麻市)の開催
- ・地域の伝統文化を継承する活動(麻文化伝承活動、地区の祭礼子復活)
- ・移住・定住人口の増加につながる活動(ワークショップ、ガイドブック作成)



子どもが中心となって地域の文化イベント「交流祭」



地域と学校で取り組む学習 美麻町立いちばん小学校コミュニティスクール



子どもが中心となって地域の文化イベント「交流祭」

美麻地域づくり会議の活動10周年の記念にと、第17回中部の未来創造大賞に応募したところ、地域の皆さんの日々の小さな活動の積み重ねを評価いただき最高賞である『大賞』をいただくことができました。

12月16日に名古屋市で表彰式があり、式典では、住民が主体となって運営するコミュニティ・スクールの取り組みが、移住定住対策の成果にもつながっている点などが高い評価をいただいたとのお話がありました。受賞を糧に、これからも地域づくり活動を推進していきましょう。(会長 前川浩一)



中部の未来創造大賞とは

中部の未来創造大賞は、国土交通省中部地方整備局が、中部5県(愛知、岐阜、三重、静岡、長野)を対象に開催している地域づくりを応援する賞です。

平成20年に閣議決定された国土形成計画(全体計画)では、多様な主体の参画による地域の課題の解決等を目的とした「新たな公」を基軸とする地域づくりの視点が盛り込まれており、「中部の未来創造大賞」では、このような観点から、民間、行政の垣根を越えた幅広い分野で取り組まれている活動を顕彰することにより、中部地域の「地域づくり」に役立て、新しい時代にふさわしい未来の中部の発展と啓発を促進することを目的としています。



- 【大賞】 美麻地域づくり会議(長野県)
「地域のデザインを住民自治で」
- 【優秀賞】 フラワーパーク江南友の会(愛知県)
- 【優秀賞】 うしづま水辺の楽校世話人会(静岡県)
- 【優秀賞】 株式会社 加藤建設(愛知県)
- 【特別賞】 長良川環境レンジャー協会(岐阜県)

新しい地域の助け合い活動が始まる!

「美麻お助け隊」会員募集中

美麻地区社協では、日常生活の中でちょっとした困りごとをお手伝いする「美麻お助け隊」を組織し、現在、利用会員、協力会員の登録を進めています。

新しい地域の助け合いの仕組みについて、美麻地区社協の木村さんにお話を伺いました。

あなたの出来る
小さな事が
誰かの役に立つ

困っている事を
気楽に頼める
人がいる



安心して暮らせる地域

Q1: なぜ、お助け隊のような活動が必要なのですか？

A: 地域の助け合いを進めるうえで、お願いしたい人が頼みやすく、お手伝いする人も気軽にできる有償ボランティアの仕組みをつくりました。

Q2: どんな事を頼めるのですか？

A: 日常生活上の困りごとで、専門の資格や知識がいない範囲の活動と考えています。

Q3: なぜ会員登録をしなければいけないのですか？

A: お手伝いを依頼したい人からは依頼内容を、協力したい人は、自分ができる支援の内容を登録いただき、地区社協が調整するために必要です。登録料の100円は、活動時のボランティア保険料に充てるものです。

Q4: 会員には誰でも登録できるのですか？

A: 美麻お助け隊は、地域でお互いに助け合える活動としていくため、スタート時点では、利用会員、協力会員とも美麻地区の住民に限定しています。

Q5: お願いしたいことはあっても、頼める人がいないのですが、どうすればいいのでしょうか？

A: ご近所に頼める人がい場合でも、依頼内容を実施できる人が協力会員に登録されていれば、地区社協が紹介します。

Q6: 手伝いたい気持ちはあるけど、仕事もしているので、短い時間しか協力できないけど？

A: できる範囲で結構です。条件にあう依頼があったときに、地区社協から連絡させていただきます。まずは、登録してみてください。



「美麻お助け隊」についてのお問い合わせは、
美麻地区社会福祉協議会
電話29-2341までお願いします。

美麻地区文化祭開催 (10/22.23)

実行委員の皆さんに準備いただき650点の作品を展示して開催しました。3年目の参加となった、ふるさと美麻会の人達からは、今回は27点(4名から)の出展をいただきました。

美麻会の会員が減少する中、出展までの皆様のご苦勞と、ふる里を思う気持ちに、感謝を申し上げたいと思います。



美麻小中学校は、展示発表に全校が、ステージ発表に7～9年生が参加しました。ステージ発表では、各学年、総合的な学習の時間「市民科」の学習の発表を行いました。8年生の花豆班は、「花豆レシピコンテスト」を別枠で行い、アドリブの効いたコメントで会場を盛り上げ

ました。また、9年生は、学校の文化祭“梨の木祭”の音楽会での合唱を発表しました。

7～9年生は、ステージ発表の司会や舞台準備、全体の片付けなど地区文化祭の運営にも関わり、地域に貢献した一日にもなりました。(美麻小中学校)

とうとう来たかー

地区文化祭がありました。とうとう来たかーと思いました。最初の開祭式、仕事は何もなかったんですが、急遽、司会をやることになり、しかもいきなり始まったので焦りました。次の出番は総合発表です。練習もしてきたから緊張せずに発表することができました。

お昼を食べた後は、花豆コンテストです。練習とかは、1回もしてなくて、ぶっつけ本番。大丈夫かなあと思いながら始まりました。参加者から料理の説明をしていただいて試食の繰り返しでした。食べているとき、シーンとしちゃうと思うんですけど、そのとき食レポとかしてくれて良かったと思います。一歩くんの食レポには、ちょっと才能を感じました。

続いて公開収録です。これが一番不安でした。練習はたくさんしたし、何度も確認

したけど、本当に良かったのか、とかいろいろ気にして緊張しました。ところどころ、噛んだりもしてしまって、うわーって思ったけど、できるだけ紙を見ないとか笑顔意識とかそういうのを考えられたので良かったです。でも正直、全て終わって「カット」ってなったときホッとしました。

一日がいつもより長かったと思いました。だけど、全部含めて成功したので良かったです！(8年 川尻夏翠)



地区文化祭が終わった後、いろいろな人から「9年すごいね」と言われました。9年が出した案のうち、美麻をアートにするというところでは、前川さんや大塚さんと話して、形は少し変

わるけれど路面ペイントならできそうだという話になりました。

どの案もすばらしかったので実際にできるように考えていければいいなと思いました。(9年 仲原千織)

カラフル忍者にナリキリ！



美麻の文化祭で、美麻保育園の年中三人、年少三人の可愛い子どもたちの発表会がありました。六色のカラフルな忍者の衣装で、

忍者になりきり登場。可愛い子どもたちの姿に観客の方々からも暖かい声援が聞かれました。楽しい歌と音楽に合わせて、色々な修行を上手なダンスで行い、手裏剣を拾う仕草などとても可愛く格好良かったです。

続いては、「きよしのズンドコ節！」誰もが知ってる歌で、観客の方々にご協力頂き、保育園の先生方の手作りの「きよしうちわ」を持って、歌に合わせて「きよし！」とうちわを振り、とても盛り上がりました。そんな大歓声の中、子どもたちも嬉しそうに、カスタネット、タンバリンの演奏をして、とっても上手でした。

子どもたちの可愛い姿に、心が暖まりました。（みあさ保育園保護者会）

イモほり&焼きイモ

公民館の方と一緒に植えたさつまいもを10月26日に芋掘りをしました。

ずっと楽しみにしていた子ども達、「がんばるぞ〜！」と朝から気合が入っていました。土をかき分け、掘って掘ってもまだまだ大きなお芋、みんなで力を合わせて掘り出すと、出てくるたくさんのお芋に「見てー！大きいよ」と大興奮の子ども達でした。掘ったお芋はおみやげで家に持ち帰り、「自分で掘ったんだよ！」と得意げな子ども達でした。

28日の焼き芋会では、パンダクラブのお友達もお芋を洗って包むことをお母さんと一緒にやりました。みんなでひとつずつお芋をたき火の中に入れたら、焼けるまでの間、トライアングルさんの歌やパネルシアターを楽しみました。焼き芋のお味は…「おいしーい！」みんなニコニコでした。



みんなでおもちつき



11月8日にパンダクラブのお友達と一緒におもちつきをしました。つき手は宮沢館長さん、荒井さん、曾根原先生です。「がんばれー！」の子ども達の声援に力をもらい、力が入ったいい音を響かせていました。子ども達も「ヨイショ！ヨイショ！」と掛け声で応援です。子ども達は小さいきねで餅つき体験をしました。「重たいよ〜」と言いつつペタンペタンとかわいい音でつくことができました。きなこ、ごま、磯辺もち、どれも柔らかくて美味しく、みんないっぱいおかわりして食べました。

祝 40周年記念 梨の木祭大成功



9年間最後の梨の木祭



梨の木祭を終えて。今年、私は9年生なので梨の木祭に参加する者として最後の梨の木祭でした。“リハーサルをみっちりした開祭式”や“本番に強すぎた大縄”など思い出がありません。そして、たくさんの人に“よかったよ”とほめてもらいました。私は、ほめられるために梨の木祭を成功させよう！って思っていたわけじゃないけど、ほめられるとやっぱりうれしくて、このクラスメートとして誇りに思いました。そして、この9年生と一緒に過ごしてきて幸せだとしみじみ思いました。“最後だ”って思うと楽しんでくれたホップ期、笑顔いっぱいのステップ期、一緒に創り上げて

くれたジャンプ期のみんなの笑顔が一番うれしかったです。

そして、本当にたくさんの人に支えられここまで来たんだと思いました。係では、装飾係として、たくさんの先生に支えられ、相談にも乗ってくれました。8年生も他の委員も梨の木祭のために頑張ってくれました。本当にありがとうございました。(9年 小林奎)



来年は、僕たちがつくる

僕は、本部としていろいろな会議に出たりしていて梨の木祭がゼロから出来上がっていくのを見してきました。でも、知らないうちに9年生が手際よく進めていて、もうこんなに進んでいる、と思うことが多々ありました。

梨の木祭が近づいてくると各係長が集まり、係のつなぎの部分（例えば開祭式…本部→梨の木広場…生活、や入場のときは一番後ろのカーテンは開けておく）など「細かい」明るさのことまで僕が全く思いつかないような詳細まで会議をしていて、これが会議なんだ、と思いました。9年生は係の仕事で忙しいし、勉強のこともあるだろうし、有志の練習もあるのに仕事を完璧にこなし、梨の木祭を成功させてすごいと思いました。

こういう努力を見てきたからか、今年の梨の木祭は例年よりあっという間に過ぎたように感じ、感動も大きかったです。

来年は第30回の梨の木祭です。今年見たものを来年8年生に伝えて、僕たちも良い梨の木祭にしていきたいです。今年の様子をしっかり覚えていられるか、しっかり伝えられるか不安の方が大きいですが、今年の資料を基にして、来年、最後の梨の木祭を全員が楽しめるものにしたいです。(8年 巻田和希)



全国から市町村職員が研修に

10月7～9日に東京財団「週末学校」の研修プログラムとして、地域づくり活動、コミュニティ・スクール、移住定住促進の取り組みを中心に、全国各地から

「住民自治」を学ぶ皆さんが美麻地区を訪問しました。

参加された方々から感想を寄せていただきましたので紹介します。

初日に美麻小中学校で美麻市民科の授業を見学し、生徒たちの学力の高さ、理解力の高さに驚かされました。人口や子育ての問題など、難しいテーマを生徒たちはよく調べていて、我々大人が質問しても、しっかりとした受け答えをしてくれます。自分で調べ・考えることで高い思考力が身につけているのだと思いました。

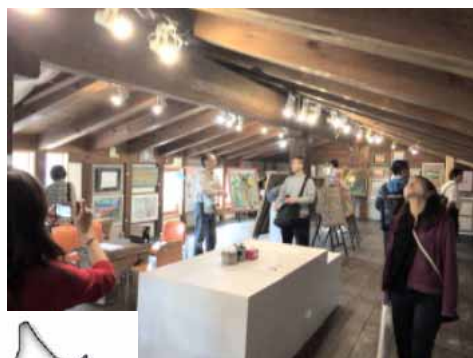
また、知らない大人とも分け隔てなく話せる生徒たちに、とても豊かな人間性を感じました。最近「知らない大人とは話さないように」と学校や家庭で指導される子どもも少なくないようですが、美麻では逆です。

大人も子どもも隔てなくコミュニケーションをとることで、連帯感や人のつながりを生んでいます。ある生徒に「美麻の魅力って何？」と聞いたところ「美麻は人が良い」と答えてくれたのは決して偶然ではないと思います。

人のつながりの喪失が

叫ばれる昨今ですが、美麻にはそれは当てはまりません。美しい自然と人のつながりがあるのが美麻地区なのだと私は感じました。

東京都福生市役所 池田 悟



大町では、麻倉等で芸術交流を視察



天城町 Amagi Town

周囲を綺麗な山々に囲まれ、空気が澄んでいるなあと感じたのが第一印象です。

『美麻地域づくり会議』を中心としたイベントや情報発信、コミュニティ・スクールなどの様々な自治活動を学び、地域の繋がりが大切だと再確認することができました。私が住んでいる鹿児島県徳之島の天城町も『ユイの里』と呼ばれ、地域の住民同士の繋がりが強く、地域の行事などで助け合っていますが、住民一人一人が地域のことを思い、その“思

い”を繋ぎ合わせてまちづくりが実践されている美麻地区の取り組みには感心させられるばかりでした。

島と山間の地域なので環境こそ違いますが、必ず今後の私の地域におけるまちづくりに生きてくると感じますし、生かしていきたいと思えます。今まで以上に地域の人達とたくさん話して、地域のことを一緒に考え、実践できるように頑張っていきます。

鹿児島県天城町 福田光宏



移住者へのヒアリングなど地域の方々に協力いただきました。

東京財団週末学校

市区町村職員人材育成プログラム

東京財団週末学校は、「住民を主体とする地方自治の実現と地域の潜在力を活かした多様なまちづくりのため、自らの頭で考え、行動を起こすことができる人材の育成」を目的に、2004年度から東京財団が実施する市区町村職員を対象とした人材育成プログラムです。開始から13年目をむかえ、全国各地で約240名の修了生が活躍しています。

「美麻市民科まとめの会」

10月31日(月)の総合的な学習の時間「市民科」では、長野大学の禹先生にも来ていただき7～9年生で今年の学習を振り返る「まとめの会」を行いました。
班ごと活動を振り返り、全体に発表を行った後、禹先生からのお話を聞きました。



☆7年生の大西冬真くんと宮下和也くんの「まとめの会」の学習カードの内容です。

研究テーマ 「冬の安全を守るプロ」

- 1 自分たちの研究を通して、わかったこと、発見したこと、これはすごいと思ったこと。
 - ・除雪している人は、毎朝雪が降ると出動してガードレールなどの障害物に気をつけて仕事していること。

- ・どこのナンバーが主に事故を起こすかについて警察署で知れた。
- ・大町警察署の小出さんのお話では、カーブやトンネルで事故が多い。細い道には着脱所がない。
- ・また、午前2時から除雪していたのはすごいと思った。
- 2 地域の方や、グループの友達、先生方との活動を通して学んだこと。
 - ・模造紙にまとめることで次、どのようなことをまとめればいいのかわかった。
 - ・電話のかけ方、アンケートの取り方。
 - ・調べ学習のまとめ方がわかった。
- 3 地区文化祭での発表に向けて工夫したこと。
 - ・みんなが飽きないように劇を入れたり呼びかけたり笑いの要素を入れるなど工夫した。他にも話す間を考えたりした。
 - ・劇を入れて、みんなが飽きずに聞いてもらったこと。

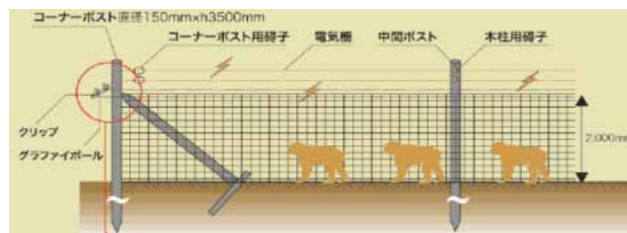
美麻小中学校コミュニティ・スクール通信



鳥獣被害防止総合対策交付金要望調査について

野生鳥獣の被害が深刻化・広域化している中、国では地域関係者が一体となった鳥獣被害防止を支援しているところ。大町市有害鳥獣被害防止対策協議会では標記交付金を活用した侵入防止柵の設置を推進しており、来年度の事業実施に向けて各自治会宛に調査票を配付しております。つきましては、自治会・集落内において侵入防止柵設置の意向がある場合は、調査票に

必要事項を記入のうえ、平成29年1月6日までに美麻支所産業建設係か大町市役所3階の農林水産課までご提出いただきますようお願いいたします。



■ 編集・発行 美麻地域づくり会議

住所 大町市美麻11810-イ 電話29-2311 FAX29-2333 ・電子メール info@miasa.info